

モビリティシステムマネジメントセンター

MOBILITY SYSTEMS MANAGEMENT CENTER

Mobility Systems

... 移動すること ...

公共交通研究会を立ち上げ、日本交通計画協会の方々のご協力を得ながら、LRT (Light Rail Transit) の導入や地域活性化に向けたMobilityのあり方を検討しています。駅構内のユニバーサルデザインや人が行き来する空間内におけるパーソナルモビリティの機能、人やクルマとのインタフェースを検討していきます。



Museum Management

博物館システムマネジメント

LMA (Library, Museum, Archive) に University を加えた ULMA による「知の再編」は、地域の活性化に欠かせません。博物館を取り巻く環境を一つの社会システムととらえ、これを持続させ発展させるために行うべきことは何でしょうか？ インターネットを活用した支援のあり方やアーカイブへのアクセシビリティの向上を推進していきます。



Control for Mobility System Safety

モビリティシステム安全の制御

オートバイや自転車はパーソナルモビリティとして、すでに広く普及しています。しかし、さまざまな交通環境の中でオートバイや自転車の転倒事故などが起こり、ライダーが大きなダメージを受けることもあります。そこで、ライダーのダイナミクスや操縦性を考慮し、オートバイ自身の安定性を高めるとともに、ライダーの操縦を適切にアシストするための制御システム開発を行っています。

また、オートバイのみならず、大型車両やクルマ、歩行者や自転車間の相互作用に着目した研究を実施し、安全支援・環境技術による交通システム全体としての安全性の向上を目指しています。

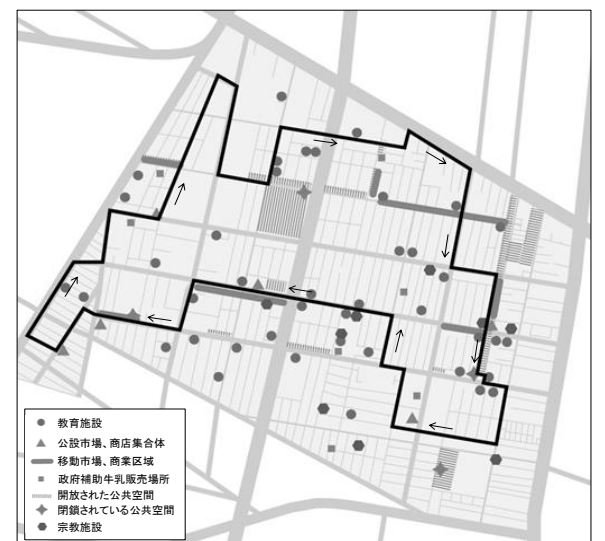


Community Mobility

コミュニティ活性化へのモビリティの役割

従来の「持続可能なモビリティ」では、社会的な課題として、アクセシビリティ、安全性およびセキュリティが考慮されていますが、住民間の社会的相互作用が考慮されていません。これは、モビリティの範囲を比較的長距離としているためと考えられます。

本研究では、住民間の社会的相互作用を高めることでモビリティの持続可能性を高めることにつながると考え、このためのアプローチを確立することを目的としています。主婦、子供や高齢者がコミュニティ内で行う短距離移動に焦点を絞り、コミュニティにいる住民の間で社会的相互作用(出会い、気づき、コミュニケーション等)を高めるために必要とされるモビリティソリューションを具現化します。



日本交通計画協会とともに組織している「公共交通研究会」を中心として活動を行っています。コンパクトシティに代表される都市計画において、LRT、電気自動車、パーソナルモビリティなどの移動体(モビリティ)をいかに活用するか、そのための周辺環境やモビリティのデザイン、マネジメントをどのように具体的に実施すべきかを外部の専門家の方々と検討しています。

ご連絡先:

慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科

西村 秀和

h.nishimura@sdm.keio.ac.jp